

蒲郡市の人口動態報告（令和6年4月）

蒲郡市企画部企画政策課
TEL:0533-66-1162

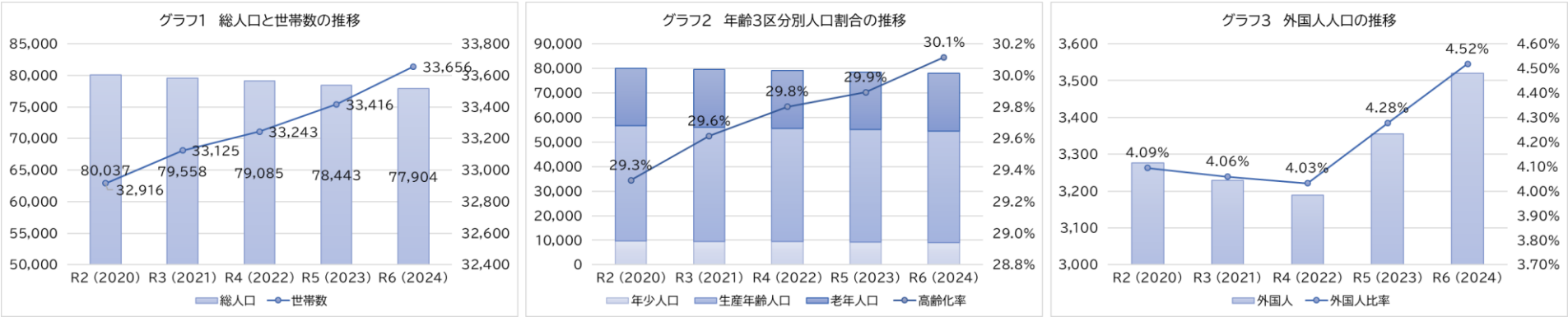
1 人口と世帯の概況

(1) 人口と世帯数

- 令和6年4月1日現在の人口は77,904人（前年比－539）で前年に引き続き減少した。
- 世帯数は33,656世帯（前年比＋240）で前年に引き続き増加した。
- 年少人口は8,910人（前年比－214）、生産年齢人口は45,534人（前年比－336）で前年に引き続き減少した。老年人口は23,460人（前年比＋11）で増加に転じた。
- 外国人の人口は3,520人（前年比＋165）で前年に引き続き増加した。

表1 人口と世帯数の推移

年次	4月1日現在			世帯数	人数/ 世帯	年少人口		生産年齢人口		老年人口		外国人	
	総人口	男性	女性			総数	比率	総数	比率	総数	比率	総数	比率
R2 (2020)	80,037	39,505	40,532	32,916	2.43	9,612	12.0%	46,946	58.7%	23,479	29.3%	3,277	4.1%
R3 (2021)	79,558	39,292	40,266	33,125	2.40	9,432	11.9%	46,564	58.5%	23,562	29.6%	3,229	4.1%
R4 (2022)	79,085	39,057	40,028	33,243	2.38	9,327	11.8%	46,190	58.4%	23,568	29.8%	3,189	4.0%
R5 (2023)	78,443	38,717	39,726	33,416	2.35	9,124	11.6%	45,870	58.5%	23,449	29.9%	3,355	4.3%
R6 (2024)	77,904	38,470	39,434	33,656	2.31	8,910	11.4%	45,534	58.4%	23,460	30.1%	3,520	4.5%



(2) 総代7地区別人口（※全体の数値は、住民基本台帳の人口動向資料と数件の誤差があります。）

○対総人口に対する比率は町部、形原、三谷、東西北部の順に多い。

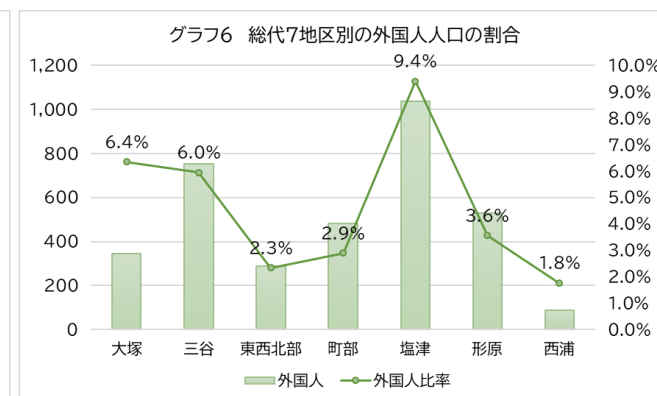
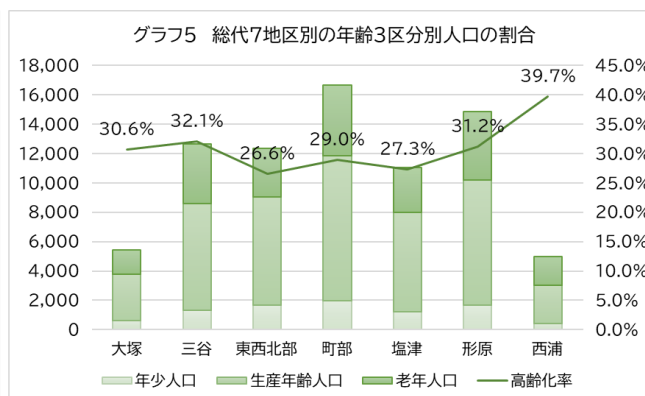
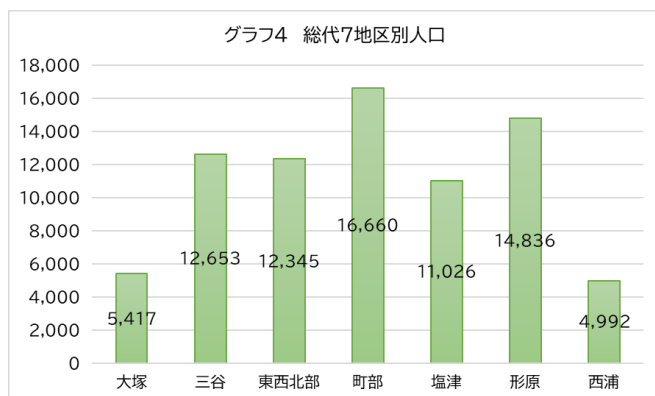
○1世帯あたり人数は東西北部では約2.5人となっているのに対し塩津では2.1人台で地域間に差がある。

○年少人口比率は東西北部、町部、大塚の順に高く、西浦が最も低い。生産年齢人口比率は塩津、東西北部、町部の順に高く、西浦が最も低い。老年人口比率は西浦、三谷、形原の順に高く、東西北部が最も低い。

○外国人比率は塩津、大塚、三谷の順に高く、西浦が最も低い。地域間で大きな差がある。（最大7.6ポイント）

表2 総代7地区別の人口の概況

地区	4月1日現在		世帯数	人数/世帯 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口		外国人	
	総人口(人)	対総人口比率			総数(人)	比率	総数(人)	比率	総数(人)	比率	総数(人)	比率
大塚	5,417	7.0%	2,383	2.27	610	11.3%	3,147	58.1%	1,660	30.6%	344	6.4%
三谷	12,653	16.2%	5,669	2.23	1,330	10.5%	7,266	57.4%	4,057	32.1%	753	6.0%
東西北部	12,345	15.8%	4,815	2.56	1,682	13.6%	7,380	59.8%	3,283	26.6%	289	2.3%
町部	16,660	21.4%	7,436	2.24	1,993	12.0%	9,842	59.1%	4,825	29.0%	483	2.9%
塩津	11,026	14.2%	5,133	2.15	1,199	10.9%	6,814	61.8%	3,013	27.3%	1,037	9.4%
形原	14,836	19.0%	6,119	2.42	1,669	11.2%	8,537	57.5%	4,630	31.2%	529	3.6%
西浦	4,992	6.4%	2,101	2.38	434	8.7%	2,574	51.6%	1,984	39.7%	88	1.8%



2 人口動態の概況

(1) 人口動態の概況

ア 過去5年間の推移

○出生数は449人（前年比－25）、死亡数は1,089人（前年比－4）でともに減少した。

○転入数は2,482人（前年比－123）、転出数は2,371人（前年比－238）だった。

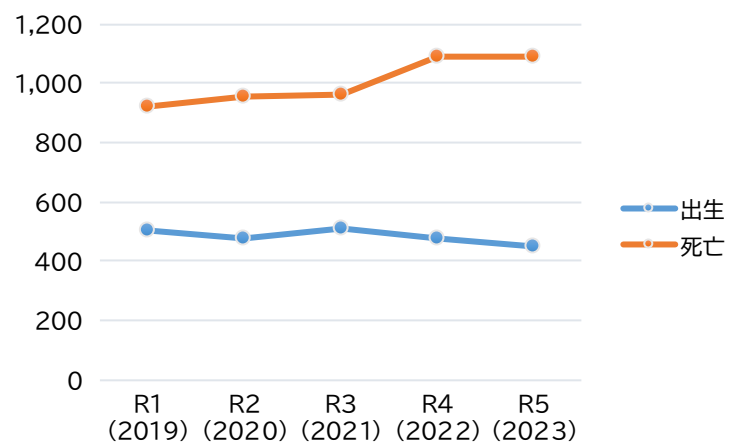
○自然増減は－640人、純移動は＋111人で、全体の人口動態は減少した。

表3 人口動態の推移

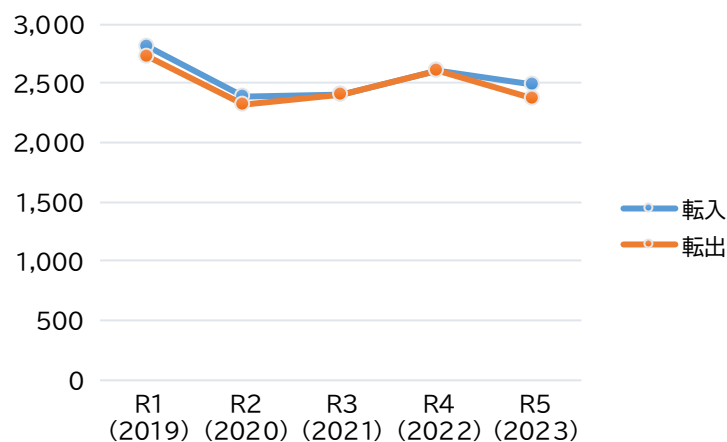
年度	出生	死亡	自然増減	転入	転出	純移動
R1 (2019)	505	921	-416	2,812	2,724	88
R2 (2020)	473	956	-483	2,394	2,326	68
R3 (2021)	509	964	-455	2,408	2,402	6
R4 (2022)	474	1,093	-619	2,605	2,609	-4
R5 (2023)	449	1,089	-640	2,482	2,371	111

※転入・転出に依らない移動(職権による処理等)は含んでいない

グラフ7 自然動態の推移



グラフ8 純移動の推移



イ 総代7地区別の人口動態（※全体の数値は、住民基本台帳の人口動向資料と数件の誤差があります。）

○出生数は町部、東西北部、塩津の順に多く、西浦が最も低い。死亡数は形原、町部、三谷の順に多く、大塚が最も低い。

○全地区で自然減となり、形原、三谷、町部の順に多く、大塚が最も低い。

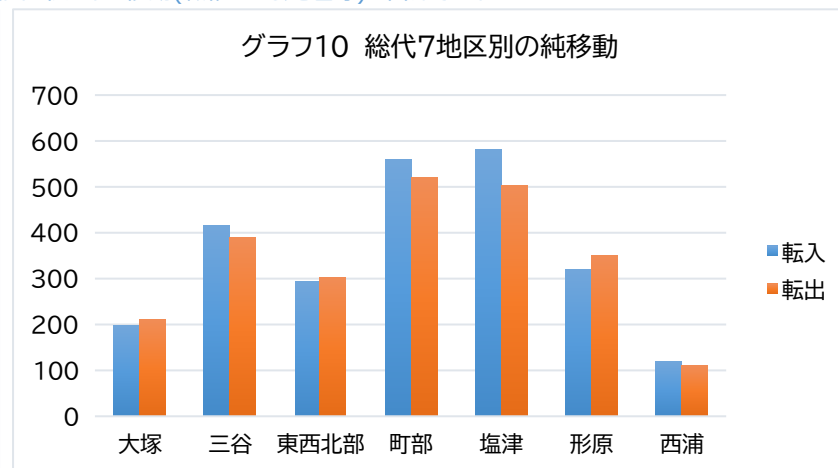
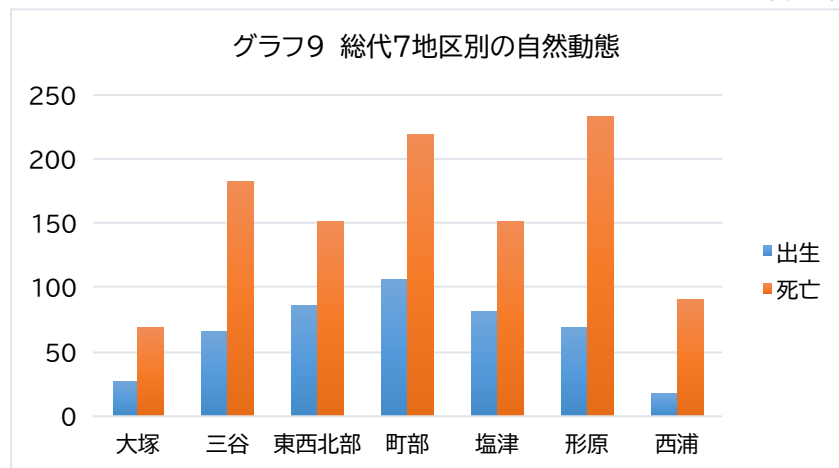
○純移動がプラスとなったのは三谷、町部、塩津、西浦であり、他の大塚、東西北部、形原でマイナスとなった。

○人口動態が大きいのは形原では、－１００人を超えた。塩津はプラスとなった。

表４ 総代7地区別の人口動態 (2023年度)

総代7地区	出生	死亡	自然増減	転入	転出	純移動	増減数
大塚	27	69	-42	197	211	-14	-56
三谷	66	182	-116	413	388	25	-91
東西北部	86	151	-65	293	303	-10	-75
町部	106	220	-114	561	521	40	-74
塩津	81	151	-70	580	504	76	6
形原	68	234	-166	318	349	-31	-197
西浦	17	90	-73	118	110	8	-65

※転入・転出に依らない移動(職権による処理等)は含んでいない



(2) 転入・転出の概況（※全体の数値は、住民基本台帳の人口動向資料と数件の誤差があります。）

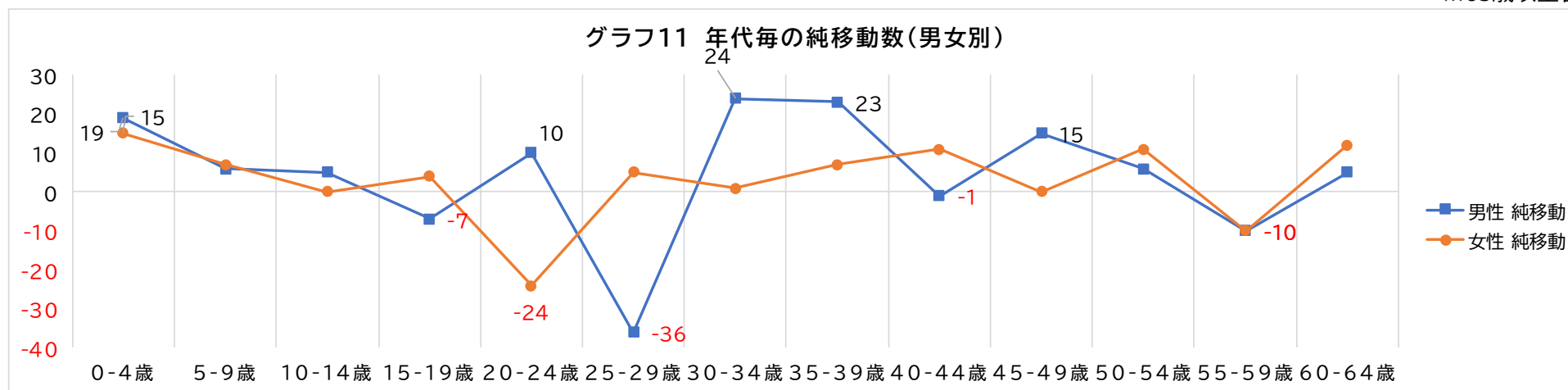
ア 年代別の転入・転出（男女別）

- 男性・女性いずれも20-24歳・25-29歳・30-34歳・35-39歳で転入・転出の件数が多い。
- 転入では、0-4歳・5-9歳・10-14歳の年少人口が男女ともに転出を上回り、純移動がプラスとなった。
- 30-34歳・35-39歳で男女ともに転入が上回ったが、特に男性の純移動が+20を超えた。
- 転出では、女性の20-24歳・男性の25-29歳で転出超過となり、純移動が大きくマイナスとなった。
- 全体としては、純移動がプラスとなった年代が多かったが、55-59歳のみ男女ともに純移動がマイナスであった。

表5 年代毎の転入・転出（男女別）

		総数	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳
男性	転入	1,334	54	30	20	33	196	280	232	142	86	69	58	33	40
	転出	1,277	35	24	15	40	186	316	208	119	87	54	52	43	35
	純移動	57	19	6	5	-7	10	-36	24	23	-1	15	6	-10	5
女性	転入	1,146	67	30	15	34	177	271	164	100	77	47	44	29	24
	転出	1,109	52	23	15	30	201	266	163	93	66	47	33	39	12
	純移動	37	15	7	0	4	-24	5	1	7	11	0	11	-10	12

※65歳以上省略



イ 年代別の転入・転出（国籍別）（※全体の数値は、住民基本台帳の人口動向資料と数件の誤差があります。）

○日本人・外国人いずれも20－24歳・25－29歳・30－34歳で転入・転出が多い。

○外国人は、ほとんどの年代で純移動が+であり、全体は+152であった。

○日本人・外国人いずれも0－4歳・5－9歳・45－49歳、50－54歳で純移動がプラスである。

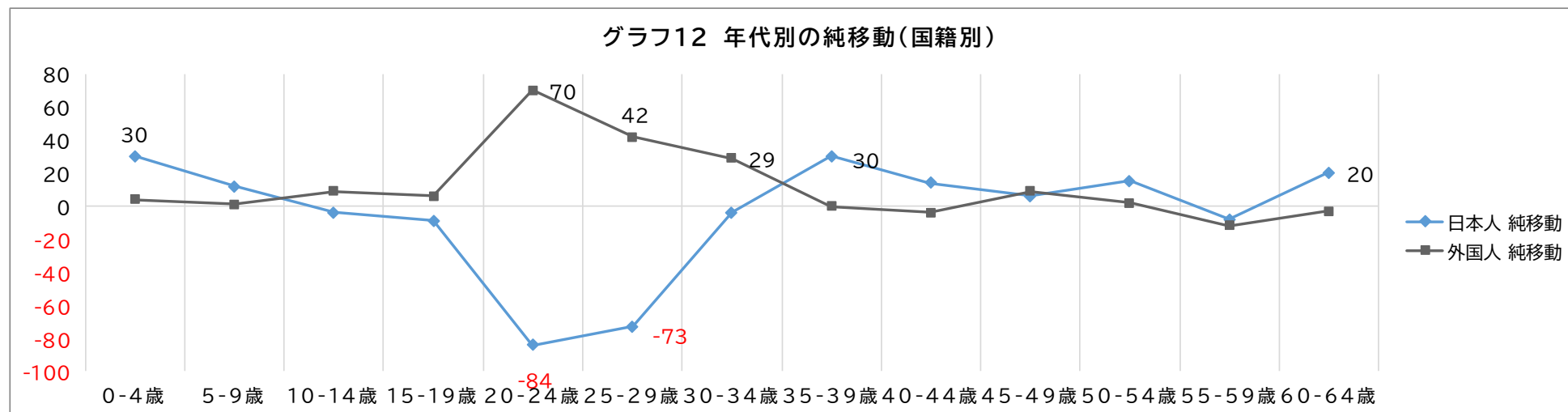
○日本人と外国人と比較すると、20－24歳が純移動の差が一番大きく、日本人が－84に対し、外国人は＋70である。

○10－14歳・15－19歳・20－24歳・25－29歳・30－34歳では、日本人の純移動はマイナスだが、外国人はプラスであり大きな差がある。

表6 年代別の転入・転出（国籍別）

		総数	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳
日本人	転入	1,855	109	50	20	47	245	396	277	180	126	85	85	56	57
	転出	1,913	79	38	24	56	329	469	281	150	112	79	70	64	37
	純移動	-58	30	12	-4	-9	-84	-73	-4	30	14	6	15	-8	20
外国人	転入	625	12	10	15	20	128	155	119	62	37	31	17	6	7
	転出	473	8	9	6	14	58	113	90	62	41	22	15	18	10
	純移動	152	4	1	9	6	70	42	29	0	-4	9	2	-12	-3

※65歳以上省略



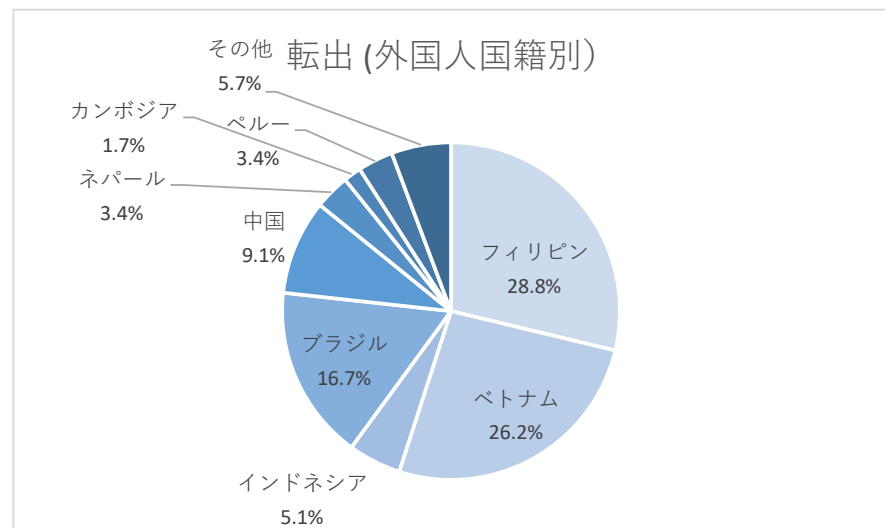
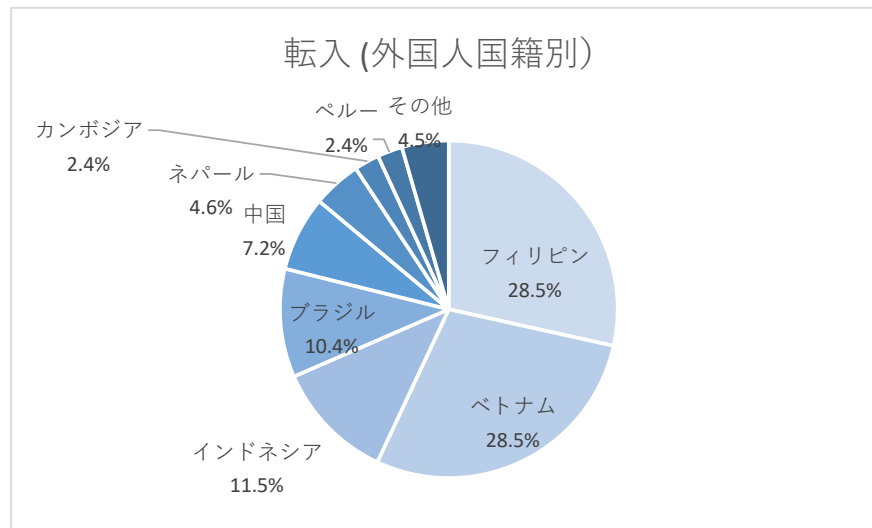
外国人年度別国籍別人口（令和5年度末現在）

合計	フィリピン	ベトナム	ブラジル	ペルー	中国	インドネシア	ネパール	韓国又は朝鮮	カンボジア	ボリビア	台湾	その他
3520	1631	464	438	321	255	153	75	47	21	13	12	90

表6別表 転入者・転出者が多い外国人国籍

国名		全体	フィリピン	ベトナム	インドネシア	ブラジル	中国	ネパール	カンボジア	ペルー	その他
転入	総数	625	178	178	72	65	45	29	15	15	28
転出	総数	473	136	124	24	79	43	16	8	16	27
純移動		152	42	54	48	-14	2	13	7	-1	1

※転入者数の多い国籍から順に掲載



ウ 主な転入元と転出先

① 愛知県内

(ア) 全体

○転入元は岡崎市、豊橋市、名古屋市、豊川市、西尾市の順に多く、愛知県内からの転入の63.0%を占めている。

○転出先は名古屋市、岡崎市、豊川市、豊橋市、西尾市の順に多く、愛知県内への転出の63.0%を占めている。

表7 愛知県内で転入者・転出者が多い市町村

県内市町村	転入				転出			
	総数	割合	男性	女性	総数	割合	男性	女性
愛知県	1,480	100.0%	789	691	1,447	100.0%	751	696
岡崎市	234	15.8%	123	111	225	15.5%	107	118
豊橋市	225	15.2%	101	124	166	11.5%	85	81
名古屋市	194	13.1%	122	72	245	16.9%	118	127
豊川市	154	10.4%	84	70	171	11.8%	91	80
西尾市	126	8.5%	71	55	106	7.3%	63	43
幸田町	115	7.8%	52	63	99	6.8%	48	51
豊田市	58	3.9%	28	30	40	2.8%	24	16
刈谷市	40	2.7%	17	23	54	3.7%	28	26
安城市	40	2.7%	28	12	35	2.4%	19	16

※転入者数の多い市町村から順に掲載

(イ) うち20—39歳【令和6年度追加】

○愛知県内からの純移動は、男性は+25で転入超過、女性は-13で転出超過となった。

○全体としては、転入・転出ともに上位は名古屋市、岡崎市、豊橋市、豊川市となっている。

○女性の転入を除いて、転入元・転出先はともに名古屋市が1番多く、特に女性は名古屋へ流出傾向にある。

○表8のうち転入超過となったのは、豊橋市、豊川市、西尾市、豊田市、安城市、田原市であった。

対して、転出超過となったのは、名古屋市、岡崎市、幸田町、刈谷市、知立市、春日井市、半田市であった。

表8 20-39歳のうち愛知県内で転入者・転出者が多い市町村

転入						転出					
男性			女性			男性			女性		
市町村	総数	割合	市町村	総数	割合	市町村	総数	割合	市町村	総数	割合
愛知県	508	100.0%	愛知県	432	100.0%	愛知県	483	100.0%	愛知県	445	100.0%
名古屋市	86	16.9%	豊橋市	87	20.1%	名古屋市	91	18.8%	名古屋市	92	20.7%
岡崎市	75	14.8%	岡崎市	58	13.4%	岡崎市	67	13.9%	岡崎市	71	16.0%
豊橋市	69	13.6%	豊川市	47	10.9%	豊橋市	51	10.6%	豊川市	51	11.5%
豊川市	57	11.2%	名古屋市	47	10.9%	豊川市	48	9.9%	豊橋市	49	11.0%
西尾市	37	7.3%	西尾市	36	8.3%	幸田町	34	7.0%	幸田町	31	7.0%
幸田町	28	5.5%	幸田町	35	8.1%	西尾市	34	7.0%	西尾市	25	5.6%
豊田市	17	3.3%	豊田市	19	4.4%	刈谷市	19	3.9%	刈谷市	16	3.6%
安城市	17	3.3%	刈谷市	14	3.2%	豊田市	15	3.1%	春日井市	9	2.0%
刈谷市	13	2.6%	田原市	10	2.3%	知立市	14	2.9%	半田市	8	1.8%

※異動数の多い市町村から順に掲載

② 愛知県外

(ア) 全体

○転入元・転出先ともに愛知県内が約60%で、次いで海外となっている。

○愛知県を除く転入元は静岡県、東京都、神奈川県、岐阜県、三重県の順に多い。

○愛知県を除く転出先は東京都、静岡県、岐阜県、神奈川県、大阪府の順となっている。

表9 転入者・転出者が多い都道府県

都道府県	転入				転出			
	総数	割合	男性	女性	総数	割合	男性	女性
全国	2,480	100.0%	1,334	1,146	2,386	100.0%	1,277	1,109
愛知県	1,480	59.7%	789	691	1,447	60.6%	751	696
静岡県	98	4.0%	53	45	99	4.1%	53	46
東京都	68	2.7%	43	25	130	5.4%	69	61
神奈川県	51	2.1%	29	22	55	2.3%	28	27
岐阜県	48	1.9%	27	21	65	2.7%	39	26
三重県	46	1.9%	17	29	36	1.5%	24	12
千葉県	37	1.5%	24	13	45	1.9%	27	18
大阪府	36	1.5%	22	14	49	2.1%	26	23
北海道	24	1.0%	14	10	15	0.6%	8	7
埼玉県	22	0.9%	16	6	30	1.3%	20	10
海外	336	13.5%	175	161	213	8.9%	117	96

※転入者数の多い都道府県から順に掲載（海外を除く）

(イ) うち20—39歳【令和6年度追加】

○全体の純移動は、男性は+21で転入超過、女性は-11で転出超過であった。

○表10のうち転入超過は、愛知県、三重県、千葉県、京都府、福岡県であった。

対して転出超過は、東京都、静岡県、岐阜県、大阪府、神奈川県、埼玉県、兵庫県であった。

○男女ともに東京都からの転入は約3%だが、東京都への転出が6%を超え、大きく差がある。

○海外からの転入は、男女ともに12%超となった。一方で、転出は10%以下であった。

表10 20-39歳のうち転入者・転出者が多い都道府県

転入						転出					
男性			女性			男性			女性		
市町村	総数	割合	市町村	総数	割合	市町村	総数	割合	市町村	総数	割合
全国	850	100.0%	全国	712	100.0%	全国	829	100.0%	全国	723	100.0%
愛知県	508	59.8%	愛知県	432	60.7%	愛知県	483	58.3%	愛知県	445	61.5%
東京都	30	3.5%	静岡県	29	4.1%	東京都	52	6.3%	東京都	45	6.2%
静岡県	25	2.9%	三重県	20	2.8%	静岡県	34	4.1%	静岡県	29	4.0%
岐阜県	23	2.7%	東京都	19	2.7%	岐阜県	27	3.3%	神奈川県	20	2.8%
千葉県	20	2.4%	岐阜県	14	2.0%	神奈川県	22	2.7%	大阪府	20	2.8%
大阪府	16	1.9%	神奈川県	10	1.4%	三重県	16	1.9%	千葉県	14	1.9%
三重県	14	1.6%	千葉県	9	1.3%	埼玉県	14	1.7%	岐阜県	14	1.9%
神奈川県	13	1.5%	京都府	7	1.0%	大阪府	14	1.7%	兵庫県	9	1.2%
埼玉県	10	1.2%	福岡県	6	0.8%	千葉県	13	1.6%	埼玉県	6	0.8%
海外	110	12.9%	海外	87	12.2%	海外	77	9.3%	海外	60	8.3%

※異動数の多い市町村から順に掲載（海外を除く）